

腹腔鏡内視鏡
合同手術研究会
Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第20回 2019年11月20日

■ 2-1	胃 LECS/Classical LECS/LECS 関連手技のポイントとこだわりと限界 Tips, preference and limitation of laparoscopic procedures for classical LECS
	1. NEWS - Nonexposed endoscopic wall-inversion surgery

演者：後藤修（日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）

Speaker: Osamu Goto, Department of Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo

NEWS(Nonexposed endoscopic wall-inversion surgery, 非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術)とは、腹腔鏡下に病変周囲の漿膜筋層を切開し、病変を内反させながら漿膜筋層を縫合したのち内視鏡下に粘膜と粘膜下層を切開することで管腔内外を交通させることなく全層切除する方法である。医原性の腹膜播種を理論上予防できることから、潰瘍を形成しているSMTや胃癌にも適用可能である。また、センチネルリンパ節ナビゲーション手術(SNNS)と融合させた臓器温存治療も試みられている。経口回収となるため病変サイズに限られる、漿膜側からの病変の同定がときに困難、内視鏡による切除が困難、腹腔鏡処置も部位によっては困難、時間がかかる、内視鏡医の拘束時間が長い、内科と外科で手術日程を合わせるのが大変、播種を心配しすぎ、そもそも面倒、などなど様々な課題と批判を抱えつつ、2010年の考案以降現在の認知度に至っている。高齢化社会の到来による tailor-made 手術へのニーズの高まり、robotic surgery の普及、軟性鏡 manipulator の開発などがそれらの課題を払拭してくれることに期待している。単施設の胃 SMT42 例における NEWS の手術成績と長期予後については最新の論文 (Aoyama J, et al. Gastric Cancer [Epub ahead of print]) を参照されたい。